

問1 茶道における「一期一会」の精神を、その都度の茶事を一生に一度限りのものと覚悟して自己の最善を尽くすことと捉え、さらにこの態度を人生全般に広げて、各瞬間を一生に一度の覚悟で全力で生きることにより、無常を生命肯定の契機へと変えて充実した生が実現されると説いた、昭和期の日本の哲学者は誰か。（2020年 全国公立入試 類似）

1. 久松真一 2. 西谷啓治 3. 九鬼周造 4. 和辻哲郎

問2 日本の思想史において、内面的な心のあり方と外面的な実践行為は不可分であると考えられてきた。特に幕末の志士たちの行動指針となり、真の知識は必ず主体的・実践的な行動を伴うものであるとする、陽明学の根本的な命題を何とよいか。（2019年 全国公立入試 類似）

1. 知行合一 2. 万物一体 3. 居敬窮理 4. 格物致知

問3 日本の風土や思想の特質を追究したある思想家は、日本神話における神々のあり方に注目した。彼は、日本神話には唯一絶対の究極神は存在せず、最も尊貴な神とされる太陽神であっても、みずから他の神を祀るという主客の二重性をもった存在として描かれていると指摘した。この指摘を行った、著書『風土』や『倫理学』などで知られる近代日本の思想家は誰か。（2016年 全国公立入試 類似）

1. 中江兆民 2. 和辻哲郎 3. 内村鑑三 4. 吉野作造

問4 親鸞が唱えた思想で、自力で善を行えると思いついでいる「善人」よりも、自らの煩惱の深さを自覚し自力では救われないと自覚している「悪人」こそが、阿弥陀仏の他力救済の対象（正機）であるとする考え方を何とよいか。（2011年 全国公立入試 類似）

1. 神本仏迹説 2. 悪人正機説 3. 他力本願説 4. 本地垂迹説

問5 江戸中期の儒学者である荻生徂徠は、人間は生まれつき多様であり、朱子学のように個人の内面的な修養によって道徳を完成させることは困難であると考えた。彼は、社会の秩序を維持し天下を安んじるためには、古代中国の聖人が人為的に定めた礼楽刑政の制度に従うべきであると主張した。この、社会を治めるための具体的な制度や規範を何と呼ぶか。（2007年 全国公立入試 類似）

1. 古文辞学 2. 知行合一 3. 先王の道 4. 格物致知

問6 徳川家康をはじめとする初期の将軍に仕え、幕府の儀礼や制度の整備に深く関わった朱子学者である。自己の慎みを保つ「持敬」を重視し、天と地が分かれているように人間社会にも君臣や父子などの厳然たる身分秩序が存在することは自然の理であると説き、武家支配の正当性を理論づけた人物は誰か。（2021年 全国公立入試 類似）

1. 頼山陽 2. 室鳩巢 3. 林羅山 4. 林鷺峰

問7 日本の民俗学を創始した思想家は、文字による記録に残されない無名の庶民の生活や伝承に着目した。彼が、共同体の中で伝統的な生活様式や信仰を維持してきたこのような人々を指して用いた、日本人の基層文化を解き明かすための鍵となる概念は何か。（2015年 全国公立入試 類似）

1. 国体 2. 常民 3. 平民 4. 臣民

問8 江戸時代初期の思想家である山崎闇斎が、朱子学の「敬」の倫理を中核に据え、儒学と神道を融合させることで創始した、君臣関係の絶対性を説き、のちの尊王思想の形成に大きな影響を与えた神道説は何か。（2017年 全国公立入試 類似）

1. 復古神道 2. 垂加神道 3. 理学神道 4. 吉川神道

問9 朱子学が説く「理」を個人の主観的な思弁にすぎないと批判し、社会を治めるための具体的な制度や規範である「道」は、古代中国の先王が制作したものであると主張して、古典の言葉を直接読み解く古文辞学を提唱した人物は誰か。（2013年 全国公立入試 類似）

1. 新井白石 2. 荻生徂徠 3. 伊藤仁斎 4. 貝原益軒

答え合わせ・解説 No.1

問1	答え 1 久松真一	茶道における「一期一会」の精神を哲学的に探究し、茶事を一生に一度きりの機会として臨む態度を人生全般に拡張することを提唱した。この思想により、生老病死などの無常を単なる消極的な諦念や絶望として受け止めるのではなく、今この瞬間を全力で生きるという生命肯定の契機へと転化させ、主体的に充実した生を実現できると主張した。
問2	答え 1 知行合一	陽明学の根本命題である「知行合一」は、知ること（知識・認識）と行うこと（実践・行為）は表裏一体であり、真の知識は必ず行動を伴うという考え方である。この思想は、幕末の志士たちが自らの至誠を行動によって示そうとする実践的な姿勢に強い影響を与えた。
問3	答え 2 和辻哲郎	日本の風土や文化の特質を考察したこの思想家は、日本神話における神々の関係性について、絶対的な超越者が存在するのではなく、最も尊貴な神である天照大神自身が他の神を祀るという「主客の二重性」を有している点に注目した。これは、絶対的な一神教とは異なる、日本の伝統的な神観念の特質を説明したものである。
問4	答え 2 悪人正機説	親鸞は、自力で善を修めようとする「善人」は阿弥陀仏の他力を頼む心が薄いのに対し、自らの煩惱の深さを自覚して自力では救われないと自覚している「悪人」こそが、他力にすがるほかないため、阿弥陀仏の救済の主たる対象（正機）であると説いた。この思想を悪人正機説と呼ぶ。
問5	答え 3 先王の道	荻生徂徠は古文辞学を提唱し、朱子学の道德主義的なアプローチを批判した。彼は、人間は生まれつきの性質が異なり、内面的な修養だけで社会秩序を保つことはできないと考え、古代中国の聖人が天下を安んじるために人為的に制作した制度や規範（礼楽刑政）に従うべきだと主張した。これを「先王の道」と呼ぶ。
問6	答え 3 林羅山	徳川家康らに仕えた朱子学者の林羅山は、自己の慎みを保つ「持敬」や、万物の本質を究める「窮理」を重視した。彼は、天地自然に上下があるように人間社会にも君臣や父子などの厳然たる身分秩序が存在することは自然の理（上下定分の理）であり、それが幕府の法度や社会の礼儀として現れるべきであると主張して、江戸幕府による支配を正当化した。
問7	答え 2 常民	柳田国男は、文字記録に残る支配層の歴史ではなく、文字を持たない無名の庶民の日常生活や年中行事、信仰の中にこそ、日本人の固有の信仰や文化の基層があると考えた。このような無名の庶民を「常民」と呼び、その生活伝承を研究する民俗学を確立した。
問8	答え 2 垂加神道	山崎闇斎は、朱子学の「敬」を重視する立場から、神道と儒学を融合させた垂加神道を創始した。これは君臣関係の絶対性を強調するものであり、のちの尊王思想に大きな影響を与えた。
問9	答え 2 荻生徂徠	朱子学の「理」の探求が個人の内省や道徳的自己満足に陥ることを批判し、政治や社会の制度（経世済民）を重視する立場から新たな思考の枠組みを提示した。彼は、道とは自然の「理」ではなく、人間（先王）が社会秩序を維持するために人為的に作ったものであるとし、その理解のために古典を当時の言語として客観的に研究する手法を確立した。